

この「信仰のために戦う」必要が

日本ホーリネス教団坂戸キリスト教会 村上 宣道

まだキリスト教の信仰が根ざして日も浅い初代の教会には、ともすれば、その根底を揺るがしかねないような信仰上の問題が、次から次へと起こっていったようです。ユダの手紙もそうした状況の中で、「聖徒にひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じた」(3節)として記されたものでした。

それはどのような必要からだったのでしょうか。今日的な適応を考慮に入れますと、少なくとも次の3点があげられましょう。

一つは、「伝えられた信仰」が変質してしまうかもしれない危険性が生じて来ていたからです。純粋なものであればあるほど、変質しやすい性質があるものと言われます。4節を見ますと「神の恵みを放縱に変えて」いく危険があったことが指摘されています。誤った恩寵主義が、せっかくの「神の恵み」を放縱な生活の許容に変質させてしまおうとしたら、これは大変なことになります。しかもこれらは「ひそかに忍び込んで」くるものだけに厄介です。ですからよくよく見張りながら、断固として防ぐべく戦っていかねばなりません。

二つ目のことは、6節に「自分の領域を守らず、自分のおるべきところを捨てた」とありますように、自分たちの信仰の立場をあいまいにし、妥協してしまう危険があるので、それと戦っていく必要があるということです。

何かにつけて、あいまいな表現が多くなっているのが最近の傾向であり、また境界のは

っきりしないボーダーレスの時代とも言われます。信仰の世界にもそのような傾向が見られるとしたら、それはやはり危険です。「あなたの先祖が立てた昔からの地境を移してはならない」(箴言22:28)とありますように、信仰の地境をきちっと守り、旗幟鮮明にしていく戦いは、今も、いや今こそ必要とされているのではないのでしょうか。

もう一つのこと、この信仰は長い歴史を通じて伝えられ、そして今日、私たちに手渡されて来たのですから(3節) 私たちも次の人々、あるいは次の時代に正しく伝達していく責任があるので、そのための戦いも必要であると考えられます。

伝言ゲームというのがあります。1チーム10人ぐらいいるとして、最初に聞いた人から次々順番に伝えていくのですが、最後には似ても似つかないものになっているので大笑いしてしまうというもの。聞いたことを正確に伝えるというのはそう簡単でないことが分かります。私たちにとっての生命線ともいべき聖化の信仰が、ここまでゆがめられずに受け継がれて来たのは奇跡的なばかりの特別な恵みであったことを思いますと、次へのボタンタッチの責任は重大です。リレーでもボタンを手渡す時が一番難しいとされています。

聖化交友会が立てられていますのも、これらの戦いのためなのではないのでしょうか。この度、このような応しくない者が、東海聖会でのご用のためにお招きいただきましたが、ともに恵みを領ち合いつつ、共にその戦いに備えさせていただければと願っております。

聖霊によって

四日市に来て3年目の昨年、役員になり、すぐ副会長を仰せつかったばかりの者が、このたび会長に推されて立たせていただくことになりました。

東海聖化交友会では、春と秋の二回、聖化大会が行われ、春は日本人の講師をお招きしての東海聖会、秋は全国との連携で海外の講師による聖化大会を行ってきました。これによって、この地区のクリスチャンは、世界とつながった信仰の交わりに加わり、また聖化の恵みを聖書から日本人の手で解き明かされてきました。

聖化の信仰が、聖書を基本にしていることは、当然のことですが、外国の（特に欧米の）クリスチャンが捉えてきた聖化の信仰を理解し、日本人の生活と心に適用するために心を用いていかなければならないことを考えますと、たいへんすばらしい取り組みをしてきたことと思います。これからもこの線に沿って、聖化の信仰を深めていけることを感謝します。

中部国際空港・セントレアが開港し、愛・地球博が開催され、元気な東海地域ですが、教会にも世俗化の波が押し寄せ、聖化の恵みが希薄になる危険を感じます。私たちのためにご自身のいのちを投げ出してくださった贖

インマヌエル四日市教会
西田 价宏



い主を見上げながら、ゼカリヤ書に、「権力によらず、能力によらず、わが霊によって」

(4:6) と記されていますが、聖霊により頼み、また聖霊に導かれて、聖化の恵みを追求していきましょう。

2005～2006年 役員

会長／西田价宏師 (インマヌエル・四日市教会)
副会長／松浦 剛師 (日本イエス・名古屋教会)
書記／秋山直光師

(日本聖泉・中京聖泉キリスト教会)

会計／関 昌宏師

(チャーチ・オブ・ゴッド・春日井栄光)

広報／石田聖実師 (日本基督教団・尾陽教会)

学び／檀原久由師 (日本ホーリネス・安城教会)

会計監査／吉武昭男師 (ナザレン・名古屋教会)

遠州支部及び顧問

遠州支部・支部長／佐藤道直師

(インマヌエル・磐田教会)

同 ・書記／小林悦治師

(ウェスレアン・ホーリネス・浜松教会)

顧問／毛戸健二師 (基督兄弟団・名古屋教会)

松原向師 (一麦の群・一麦教会)

竿代信和師 (インマヌエル・名古屋教会)

東海聖化交友会 2004年度決算報告 (抄)

2005.2.28承認

【収入の部】			【支出の部】		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
会費	114,000	30教会38口	講師謝礼	145,640	含交通費接待費
東海聖会献金	182,652	6月席上献金	通訳者謝礼	20,000	
聖化大会献金	124,202	10月席上献金	奉仕者謝礼	15,000	証人/特別讃美者
一般献金	84,000	8件	JHA分担献金	78,000	会費の1/3+献金の1/10
雑収入	10,100	録音テープ代金等	JHA全国協議会	20,000	
利子	15		講師渡航費分担	35,000	
			新聞広告費	22,000	協賛広告
			会場費	40,000	
			会議費	30,551	
			広報費	47,515	
			事務通信費	36,799	
			テープ関係費	35,311	
小計	514,969		小計	525,816	
前年度繰越	382,221		次年度繰越	371,374	
合計	897,190		合計	897,190	

日本基督教団

日本基督教団は1941年、日本にあったほとんどのすべてのプロテスタント教会が合同してできた教団です。当初は35の旧教派を11部に分けていました。ウェスレーに由来を持つ教会は第2部と第6部以下に属しました。

第2部 日本メソヂスト教会、日本美普教会、日本聖園教会。 **第6部** 日本聖教会。

第7部 日本伝道基督教団（日本イエス・キリスト教会、日本協同基督教会、基督復興教会、基督教伝道教会、基督伝道隊、日本ペンテコステ教会、日本聖潔教会の合併）。

第8部 日本聖化基督教団（日本自由メソヂスト教会、日本ナザレン教会東部部会、日本ナザレン教会西部部会、日本同盟基督協会、世界宣教団の合併）。

第9部 きよめ教会、日本自由基督教会。 **第10部** 日本独立基督教会同盟会、ウエスレアン・メソヂスト教会、普及福音教会の一部、一致基督教団、東京基督教会、日本聖書教会、聖霊教会、活水教会。

第11部 救世団。

1942年6月26日、第6部及び第9部、つまり旧ホーリネス教会の教職96名が治安維持法違反で検挙され、その後20名が追検挙されました。起訴された者81名、実刑を受けた者19名、内獄死者3名、保釈後死亡者4名。第6部、第9部の201教会と63伝道所は解散させられました。教団は解散させられた教会主管者及び廃止させられた伝道所代表者に自発的辞任を勧告し、その他の両部教師に謹慎を命じました。これらの教団の処置に関して、1986年の第24回教団総会で「旧6部・9部教師および家族、教会に謝罪し、悔改めを表明する集会」が催され、後宮敏夫議長が「謝罪と悔改めの表明」を述べました。

戦後、教団を離脱して旧教派を再建したり、新教派を興した教会が相次ぎましたが、教団に残った教会も多くあります。それらの教会が、伝統を掲げてグループを形成しています。ウェスレーの伝統を継ぐ教会のグループとしては、ホーリネスの群、活水の群、更新伝道会（メソヂスト系）があり、それぞれ独自の活動をしながらも協力し合っています。特にホーリネスの群は自前の神学校を持ち、更新伝道会はウェスレー研究会を開催し、活水の群はバックストンの伝統を堅持しています。



遠州聖会の恵み

第9回遠州聖会は今年もインマヌエル浜松教会を会場に2月13日にもたれました。出席者111名が聖めの恵みを慕い求めて集いました。

講師には、毛戸健二先生（兄弟団名古屋教会牧師）をお迎えし幸いな時を頂きました。

コロサイ2:6,7,9,10のみ言から「キリスト・イエスに在る生活の祝福」と題して熱く語っていただきました。また、幸いなレジメも用意され、み言に心を傾ける良い助けになりました。信仰者としての人的・霊的成長というものが、み言を追って、また、祈りを通して加えられ、建てあげられていくことを再確

認された時でした。そして、なによりも、み言に裏打ちされた先生ご夫妻、ご家族に成された主の恵みのお証は会衆を励まして余りあるものでした。多くの方々が集会后、アンケートに回答くださり、「主の励まし」の大きかったこと、悔い改めて信仰の踏み出しをされた方など、本当に感謝でした。

特に「ご夫婦での合心の祈り」は、会衆にインパクトがあり、「祈り始めます」との証がありました。

後日「単身赴任のご主人と時を合わせて祈りを始めました」という方が起こされたといひ御名を崇めた次第です。

この聖会がなお、主に導かれ、主の祝福を頂くようにと祈って報告と致します。

(文責 小林悦治)